

花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2021.SPRING



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. 36

注目される研究報告
授業紹介-教育の現場-
シリーズ 恩師と語らう
活躍する卒業生紹介“学びの先”
OBOG・教員によるコラム
基金関係のお知らせ
Campus Information

特集

未来のライフインベージョンの
フロントラナーを目指して

—新潟大学将来ビジョン2030—

対談：新潟大学と新潟県、将来の連携に向けて

（花角英世 新潟県知事 × 牛木辰男 新潟大学長）



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY



Cover Photo

春。自然豊かな新潟大学のキャンパスでは木々や草花が一気に芽吹き、新緑の鮮やかな季節が近づいている。心地よい風と若葉の瑞々しい緑とで、思わず深呼吸したくなる。

2021.SPRING vol.36

CONTENTS

03 特集

未来のライフ・イノベーションの フロントランナーを目指して

—新潟大学将来ビジョン 2030—

対談：新潟大学と新潟県、将来の連携に向けて
(花角英世 新潟県知事 × 牛木辰男 新潟大学長)

08 注目される研究報告

10 授業紹介 -教育の現場-

11 シリーズ 恩師と語らう

12 活躍する卒業生紹介 “学びの先”

13 OBOG・教員によるコラム

14 基金関係のお知らせ

16 Campus Information

新潟大学は、2021年2月26日に「新潟大学将来ビジョン2030」を公表した。SDGs(持続可能な開発目標)の達成期限でもある2030年を直近の未来と見据え、大学が果たすべきミッション(使命)を明確にし、2030年における新潟大学のあるべき姿を示すものだ。地域社会や国際社会の発展のため、どのような価値を創造し提供していくのか。将来ビジョン公表を契機に、どのように大学の力へと変えていくのか。牛木辰男学長に聞いた。

かつて輝かしい未来と希望の象徴であった21世紀は、激動の時代となった。世界的には2001年のアメリカ同時多発テロ、国内では2011年の東日本大震災を代表とした紛争や自然災害が立て続けに起き、今また、新型コロナウイルスのパンデミックという大きな試練が私たちの目の前に立ちわだかまる。人類に迫る脅威の一方で、急速に進展する科学技術。それらは持続可能な社会発展のための原動力として大いに期待され、それとともに社会はめまぐるしく変革していく。そして、大学の使命も大きな見直しと転換が求められてきている。

この度、掲げた『新潟大学ビジョン2030』は、日本海沿岸のアジアを基点に世界に開かれた「知のゲートウェイ」の役割を担う新



新潟大学 牛木辰男 学長

特集 未来のライフ・イノベーションの フロントランナーを目指して

—新潟大学将来ビジョン2030—

**激動の時代に
新潟大学が
創造すべき価値とは**

新潟大学が、さらなる教育、研究、社会貢献を通じた知の交流を深め、人生や学び、地域社会や国際社会とのあり方について、私たちが21世紀を人間らしく生きていくために、社会に投げかける定義と提案である。近未来にむけて、新潟大学はどのような価値を創造し社会に提示していくのか。牛木辰男学長に聞いた。

**未来社会に向けて
新潟大学が
果たすべき使命**

新潟大学は、かつて「越高志」と呼ばれた大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神を受け継ぎ、「自律と創生」を全学の理念としている。

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実!

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取組や普段の風景などをお楽しみいただけます。

f @niigata.univ
t @Niigata_Univ_O
i @niigata_university

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

六花

題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授



「のフロントランナーとなる」ことと定め、地球に生きるわれわれ人類の営みを豊かにするために、総合大学である新潟大学の知を結集します。その上で、2030年という未来における新潟大学のあるべき姿をビジョンとして描き、そのビジョンに向けたこれからの道筋を目標として掲げました」

新潟大学は全国有数の大規模総合大学である。10学部と5大学院研究科、脳研究所、災害・復興科学研究科、医歯学総合病院、附属学校園を有し、また、時代に即した全学組織として、環東アジ

ビジョンを定めるために 学内外との対話は非常に重要 大学は社会とつながることが求められる

ア研究センター、佐渡自然共生科学センター、日本酒学センターが設置されている。このような非常に多岐に渡る分野・領域を抱える大学全体を貫くミッションは、どのようにして導き出されたのか。

「学部や大学院研究科などの垣根を超え、新潟大学全体を貫く共通のテーマは、『人間に関わること』です。ミッションの中で『ライフ・イノベーション』という言葉を使っていますが、英語の『ライフ』には『人生』という意味が非常に強い。健康や福祉、医療だけでなく、人生や生き方という意味で、文系理系の枠を超えた人類共通のテーマです。つまり、『ライフ・イノベーション』とは、人間が生きていくために有効なすべての技術革新ということになります。全学の知を結集し、21世紀に生きる人類を導いていくような価値を提供し続けていくことを使命としました」

策定前に実施した ステークホルダーとの 意見交換の真意

非常に興味深いのは、この『新



潟大学将来ビジョン2030」の内容が、現在の社会が大学に向けての期待を把握しながら固められてきたことだ。牛木学長はじめ大学関係者が、学生、高等学校、企業、地方自治体、海外拠点等の関係者へビジョン案を説明するとともに意見を聴く機会を設けてきた。完成前の草案に幅広いステークホルダーからの意見や指摘を取り入れ、詳細を詰めていったのだ。この過程にはどのような思いが込められていたのか。

「大学の役割は前とはかなり変わりました。2030年を見据



えたときに向かうべき視線は学生や保護者だけでなく、外の世界に広がっていています。ビジョンを定めるために、学内外との対話は非常に重要でした。学外では県内企業の経営者、行政や教育組織のトップに草案をご説明し、意見をお聴きしてきました。

現代の大学の使命のひとつは、社会のリーダーとなる人材育成です。そのために大学は当然、社会とつながることが求められます。また、学内では各学部長、学生グループなどと意見を交換し、教職員にはパブリックコメントを發して意見を募りました」

新潟大学将来ビジョン2030



新潟大学将来ビジョン2030の詳細はこちら

2030年に向けたミッション

新潟大学の理念である「自律と創生」のもとに、全学の知を結集して未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる。

2030年に向けたビジョン

1.教育・学生支援ビジョン

新潟大学は、日本の若者と社会人、外国人留学生が時間と空間を超えて集い、安心して学び、各々が自己の学びをデザインしながら多様性を受け入れ活かしあう、未来志向の総合大学となる。その中で、デジタルとリアルが融合した教育を推進し、絶えず変化する未来社会に貢献できる人材を育成する、日本海側屈指の学部・大学院教育拠点となる。

2.研究ビジョン

新潟大学は、個性ある最先端研究と多様な基礎研究を育む環境を整備する中で、ライフ・イノベーションに関わる全学の知を結集した研究フラッグシップ*を作り、未来社会に向けて価値ある国際水準の研究を生み出していく研究志向型の大学となる。

*特色があり、旗印となるような研究

3.大学病院ビジョン

新潟大学は、医歯学総合病院において質の高い医療を提供しながら、高度医療人および社会に求められる医療人を育成し、地域社会と連携して課題を解決するとともに、国際水準の先端医療の研究・開発拠点となる。

4.産学・地域連携ビジョン

新潟大学は、地域での対話や産学協働を活用した教育・研究活動を推進し、新潟という地方中核都市を起点とした地域創生と個性化に寄与することで、新たなライフ・イノベーションを生み出すための、社会と地域の共創の拠点となる。

5.国際連携ビジョン

新潟大学は、日本海側に位置する新潟から世界に開かれた「知のゲートウェイ」として、世界と協働した知の創造を推進し、国際感覚に満ちたグローバルキャンパスの中で、高度で多様な頭脳循環の場となる。

6.経営・組織改革ビジョン

新潟大学は、学長のリーダーシップの下で組織の最適化を図り、新潟大学基金を核とした外部資金の充実と、その他の学内外の多様な資源の活用を通して、地域とともに持続的に発展する活力溢れる大学となる。

大学全体を貫く共通のテーマは「人間」 ライフ・イノベーションとは 人類の未来にとって有効なすべての技術革新

この大きな柱の元で、「10年後に目指すべき姿の道標」となるものがミッション、そして「どのような姿になっているかを示す目標」が6つのビジョンである。

「新潟大学は激動の21世紀の中で必要とされ、さらに輝き続けることを目指しています。そのために、国立大学として何ができるのかを常に考え、そして行動し、未来予測の元で、次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、社会に貢献しなければなりません。『新潟大学将来ビジョン2030』は、新潟大学の原点に立ち返るとともに、多様なステークホルダーに未来の新潟大学のあるべき姿を示すものです。ここでは、SDGs(持続可能な開発目標)の達成期限でもある2030年を直近の未来と見据え、その未来社会に向けて新潟大学が果たすべきミッション(使命)を、『未来のライフ・イノベ



「ミッションやビジョンを契機として、参加型の思考や議論が派生していくこと。物事を考えていく際には、多様な意見や知が集積される場があること。それこそが、借り物ではない大学の力になると、牛木学長は考える。ミッションやビジョンは、常に意見が行き交い続けるもの、ある意味では「投げかけ」であり続けなければならないのだ。」

「アメリカ合衆国第34代大統領のアイゼンハワーが語った、"Plans are worthless, but planning is everything." という言葉があります。計画それ自体に価値はないが、立案はすべてに勝る」という意味です。出来上がった「計画」それ自体は、時代の変化や、

**ミッションと
ビジョンを
常に知が集まる場に**



**Plans are worthless,
but planning is everything.
立案の過程は必ず役に立つ**



いざ対応を迫られた課題を前にして無意味になる場合もありますが、何らかの目標を想定して行われた『立案』の過程は必ず役に立つというわけです。そして、常に議論を呼ぶような内容であることも重要です。このビジョンは陳腐化して死んでしまうものではなく、これを口実に語

れたり対話できるものであれば良いのだと思うのです。社会はどんどん変わっていくので、誰もがアンテナを張り続けていなければなりません。そのためには議論が常に必要です。例えばSDGsは、社会に対する様々な問題提起になりました。これを契機に、新潟大学の脱炭素化



やスマートキャンパス化についての議論が起るかもしれません。それを外の社会に開かれた参加型で行うことで、学生や研究者、社外の知やアイデアをしっかりと見出し、出していくことが重要です。それが借り物ではない大学の力になるのです。どのような未来を目指すのか、そのためには何が必要なのかという議論がミッションやビジョンに入っていくことが大事なのだと思います。」

激動の21世紀の社会の中で必要とされ、さらに輝き続けることを目指す新潟大学。次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、社会に貢献し続けるための、道筋として掲げられた『新潟大学将来ビジョン2030』は、道標であると同時に、それ自体が多方面からの意見が常に行き交い続けるネットワークの結節点のようなものでもあるのだ。

新潟大学と新潟県、将来の連携に向けての対談

対談:花角英世 新潟県知事 × 牛木辰男 新潟大学長

**ステークホルダーとの信頼関係やつながりの中で
新しい取組が生まれる**

(牛木辰男 新潟大学長)

牛木学長 本日はお忙しいところ『新潟大学将来ビジョン2030』について、説明の機会とご意見をいただきありがとうございます。現在、大学に求められる役割・使命は非常に多岐に渡ります。教育の点で言えば、コロナ禍でデジタル化はさらに進展しました。リモート授業の仕組みが整備され「大学に来る意味はどこにあるのか」という時代です。その意味を見出すために、私たちは新潟のキャンパスでしかないコンテンツを学生に提供しなければなりません。そこで6つのビジョンのひとつ『①教育・学生支援ビジョン』の具体策例に、企業や自治体の職員と学生が協働して実践的課題に取り組む、いわゆる『共修型フィールド学修』の充実を盛り込みました。また、『②研究ビジョン』ではビッグデータに注目していま

す。集積されたデータを社会に新たな価値を生み出していくものとするために、県内大学と企業、新潟市と連携でビッグデータ・オープンデータ活用研究会を立ち上げました。新潟県とは医療連携を密に行っていますが、今後はビッグデータ分野でも一緒に連携できればと考えています。

花角知事 県の行政研究所の中でも工業・農業分野ではお互いに近い距離での連携があります。牛木学長がおっしゃる通り、他にも様々な分野で県と大学が実りある連携を結ぶ目線が必要で、行政の中にあるニーズを大学に受け止めていただき、協力して成果を上げていければと考えています。例えば、新潟の食品産業はアジアに興味を持っています。特にベトナムでは自分たちが持っている資源に付加価値を付けて産業



を成長させていくことを国策としていきますから、県と大学が連携し、県内企業のために新たな価値を提供できそうな予感があります。

牛木 私も大学に理解を寄せていただくステークホルダーとの信頼関係やつながりの中で新しい取組が生まれると思います。

花角 その意味では県と大学のつながりにはまだまだ余地がありますし、私たちもそういう意識で大学のみなさんに接していきます。また、今回の話を聴き、「ライフ」という言葉が持つ奥行きを

感じました。

牛木 単語ひとつでこのような議論ができることが大事なのだと思います。やはりビジョンやミッションとは、プランニングのための素材なのです。

花角 同感です。そしてそれを作る過程にこそ重要な意味がある。ミッションやビジョンは作って神棚に据えて終わり、ではなく、常に神棚から下げてチェックし続けたいと思います。そのためにもぜひお互いのリソースを使えるよう連携を深めさせていただきたいと思っています。

**様々な分野で県と大学が
実りある連携を結ぶ
目線が必要**

(花角英世 新潟県知事)



新潟大学の特色ある研究トピックを紹介！
注目される研究報告
 新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究課題 素粒子ニュートリノを探究し 宇宙の謎に迫る

素粒子の性質から宇宙の歴史を読み解き イノベーション創出の下地を築く



理学部 浅賀岳彦 教授

Profile | 博士(理学)。専門は素粒子物理学。素粒子のひとつであるニュートリノに着目し、初期宇宙の物理現象などを研究

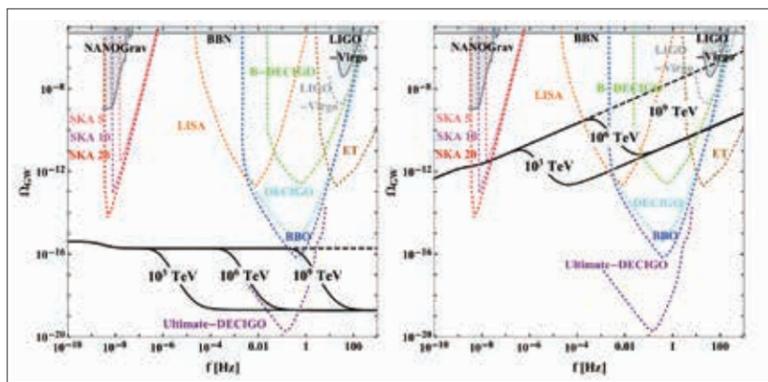
物質を極限まで細かくしていったときに現れる、原子よりも小さい「素粒子」。世の中に存在するすべての物は素粒子が集まることで構成されている。浅賀岳彦教授は、物質の最小構成単位である素粒子の性質や運動法則を理解し、それをもとに宇宙の誕生と進化の解明を目指す。

「宇宙の組成を調べてみると、人類が認識している物質は全体の約5パーセントにすぎず、ダークマターや消えた反物質など、大部分はまだまだベールに包まれています。今から約138億年前、誕生直後の宇宙では素粒子反応が活発に行

われていました。万物を構成する基本的な要素は何なのか、どのような法則に支配されているのかを研究しています」

素粒子の地上実験では巨大な加速器で物質をバラバラにし、採取した粒子の性質を調べている。研究を進めていく中で着目したのが、電荷がなく弱い力でしか相互作用しない「ニュートリノ」という素粒子。これまでは質量を持たないとされていたが、1998年に日本の物理学者・梶田隆章氏によって質量を持つことが証明された。

「素粒子物理学では『標準模型』と呼ばれる理論をもとに研究や実験が行われてきました。しかし、科学の進歩や新しい研究によってその理論では説明できない現象が生じてきました。そのひとつが梶田先生が発見したニュートリノの質量問題です。我々は理論を根本的に見直し、新たな素粒子統一理論を構築することを目指しています。そしてそれが未知の領域を明らかにする糸口になるのではと考えています」



↑素粒子ニュートリノの質量起源を重力波観測から探る。Physics Letters B 814 (2021) 136074より転載

長期的なスパンで未来を見据えた際、基礎研究を続けていくことが人類の幸せにつながると浅賀教授は研究の意義を口にする。

「宇宙の謎と日常生活との接点、と聞くピンとこないかもしれませんが、技術革新には知の蓄積が必要不可欠になってきます。今や当たり前となった衛星測位システム(GNSS)は、アインシュタインが提唱した『一般相対性理論』の考えが反映されています。我々の研究は、宇宙の本質を調べることでイノベーションを生み出す下地を作り、長期的な視点で結果的に人類の進歩や繁栄に貢献できればと思っています」

現在、浅賀教授が2005年に提唱した仮説を検証する実験に向けたプロジェクトが進行している。小さな素粒子が大きな宇宙にどのような影響を及ぼすのかを知ることは、未来を築いていくための重要なピースになるに違いない。



↑素粒子現象論・統一理論に関する滞在型国際研究会「Summer Institute」を開催(富士吉田市)

研究課題 脳の生理および病態を 細胞・分子レベルで解明

最先端技術を使って学習・記憶の生理と 発達障害の病態を細胞・分子レベルで研究

新潟大学脳研究所は脳研究の世界的な変貌と進歩に対応し、国内外研究者との共同研究の核となる、わが国で最初の脳に関する国立大学附置研究所。三國貴康教授は、脳における学習・記憶を細胞・分子レベルで理解することを目指した研究を行っている。

「研究の発端は私自身の小児科医経験にあります。できなかったことができるようになっていくときに子どもの脳の中でどのような変化が起きているのか、学習や記憶をするときの脳の仕組みを知りたいと思ったのです。また、そのような神経回路の変化が起こりやすい時期『臨界期(クリティカル・ピリオド)』と、それを過ぎてからの脳の変化にも興味を持っ

ています。臨界期と学習・記憶の関係もテーマのひとつです」

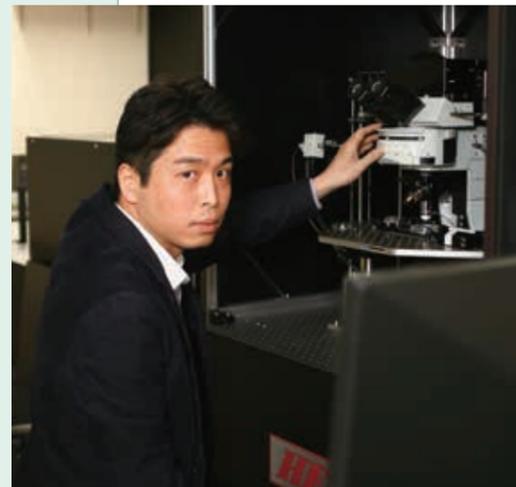
従来の研究では、脳組織内にある分子Aが学習・記憶に影響を与えることは分かっていても、分子Aがいつ、どこで、どのように動いているかは解明されていなかった。三國教授は分子を解析するため、実際に顕微鏡でその動きを見ることができ、標識技術「SLENDR」と、ウィルスベクター(遺伝物質を細胞に送るためのツール)を使った、より高性能の「vSLENDR」を確立。脳組織内の1細胞にゲノム編集技術を適用し、標識化した分子Aの局在や動態を、高度かつ迅速に観察することを実現した。

学習・記憶における脳の仕組みを知る研究は、効率の良い学習方法の究明や記憶することが難しくなる認知症の治療法の開発にもつながる。発達にともなう神経回路の変化の分析は、発達障害のメカニズム解明と治療法の開発にも応用可能だ。

「記憶はその人のアイデンティティを形成しているもので、非常にドラマティックな脳の機能です。覚えたいのに覚えられない、忘れたのに忘れられないなど、自分では制御できない部分がある記憶のメカニズムが明らかになれば、人間はもっと幸福になれると思います」

三國教授が在籍する脳研究所では、他にも革新的な技術開発で未解明の問題に取り組み、その研究は全国から注目を集める。

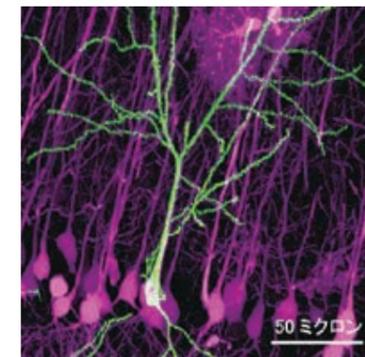
「世界中で脳の研究が行われている中で、オリジナルの研究を世界に発信していくためには最新技術でのアプローチが



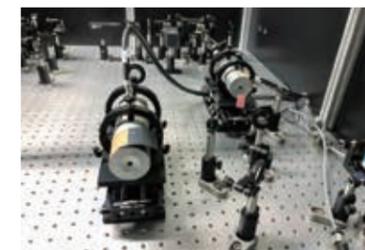
脳研究所 三國貴康 教授

Profile | 博士(医学)。脳のゲノム編集や分子イメージング・操作等の新しい方法を開発し、脳機能の生理と病態を分子レベルで理解することを目指している

不可欠。研究室には新しい研究をやりたい仲間が集まっています。日々、自由な発想で新しい方法の開発・実践を繰り返す。自分たちにしかできない研究を実現させていくのはとてもやりがいがあります」



↑SLENDR法による脳組織中の分子イメージング



↑研究室で自ら構築した顕微鏡光路

新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
 卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

OB・OGの皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク

新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

主な事業

- 講演会
- セミナー
- 研修会
- 技術相談
- など

新潟大学産学連携協力会 URL: https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会(新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@ccr.niigata-u.ac.jp

藤田 社会人経験者の中で学んだ時間には、現役学生時代には知りえなかった考え方や刺激がたくさんありました。振り返ると、多面的な見方は新鮮だったし、とても勉強になりました。

松井 ゼミ内の年長者と年少者は親子ほど歳が離れていましたよ。当時、私は30代半ば。会社では求人担当だったので、就職活動を控えた同級生に面接の質問をされました。若い人たちの考え方や意見は新鮮だったし、とても勉強になりました。

李 年齢は離れていますが、ふたりは経済学部夜間主コースの同級生です。社会人が多い夜間主コースの講義は午後6時5分から9時15分まで。最後の7限にゼミ形式で行う『文献研究』がありましたね。

松井 『文献研究』の延長線上として、みんなで居酒屋で飲んだのも良い思い出です。

藤田 みんないつも楽しみにしていました。

李 私の名誉のために断わっておくけれど、それもゼミの二環ですから(笑)。

松井 確かにガイダンスの時点でその説明がありました(笑)。

李 夜間主コースの学生にも昼の学生のような雰囲気も味わっていただけでなく、学生同士のコミュニケーションの中で学べることで、得られる知識がたくさんありますから。というわけで、ふたりは優秀な教え子であり、一緒にお酒を飲んだ友人です(笑)。

シリーズ vol. 33 恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



松井 ええ？ そんなものも(笑)。ゼミでは自分で成績表に毎回の授業中の成果として、自分のポイントを記入するんです。だから



ずです。今日は、ふたりのレポートと成績表も持ってきましたよ。

松井 ええ？ そんなものも(笑)。ゼミでは自分で成績表に毎回の授業中の成果として、自分のポイントを記入するんです。だから

松井 もちろん覚えていてます。自分はその人間になつていくかと胸が熱くなりました。

藤田 私もお話に尽きると思いますが、ふたりにこれからも未来を開拓していく気持ちを持って頑張っていくってほしいです。

李 ふたりは社会人経験もあり、自分の進むべき道をきちんと分かっている学生でした。さっきのレポートの課題は覚えていますか？

松井 もちろん覚えていてます。

藤田 私もお話に尽きると思いますが、ふたりにこれからも未来を開拓していく気持ちを持って頑張っていくってほしいです。



いこんよん
李 健泳 名誉教授(経済学部)
博士(学術)。専門は会計学、管理会計。平成17年より新潟大学経済学部経営学科教授。経済学部夜間主コースでも教壇に立つ。平成31年3月定年退職。現在も特任教授として授業を担当。学生の指導にあたる。



まついけん
松井 健さん
平成25年、経済学部夜間主コース卒業。同31年大学院現代社会文化研究科博士前期課程修了。現在はゴッドハンド株式会社の専務取締役。



ふじたまなみ
藤田 愛美さん
平成25年、経済学部夜間主コース卒業。卒業後は看護系専門学校での学びを経て、現在は看護師として地域医療に携わる。

白井 述 准教授

Nobu Shirai

Profile

博士(心理学)。専門は知覚心理学、発達心理学。赤ちゃんから成人まで、幅広い年齢層を対象に視覚の発達を研究する



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

人文学部

心理学実験A / 心理学実験B

科学的な実験・調査を行い分析レポートを通して論文の書き方を学ぶ

心理学実験は人文学部2年次からの基礎講義・実習科目。心理学における様々な先行研究を参考事例にして学びを深める。学生はこれらの実験・調査の結果を分析し、レポートを作成。『心理学実験B』では、前期の『心理学実験A』をふまえ、さらに複雑な分析へとステップアップしていく。

「実験や調査は、心理学を学ぶ上で非常に大切な部分になるので、学生にはしっかり学んでほしいと思っています。知識だけでなく教科書を読めば勉強できます。実験実習は、独学では絶対に学べない部分であり、その機会を学生に設けることが重要だと思っています」と担当教員の白井述准教授。

STUDENTS VOICE



小池美咲さん
(人文学部3年)

「心理学は心を読みとる学問だと思っていましたが、1年次の講義で全く違うものと分かり、好奇心が刺激されました。今、一番学ぶ楽しさを感じる実験です。特に錯視をはじめとする視覚の特性に面白さや魅力を感じています。自分で実際に体験することでより理解が深まりました。毎回のレポート提出は大変ですが、先生の丁寧な添削に助けられました」

2020年度はオンラインで開講し、ある回の授業では人間の視覚認知機能の特性を探る実験を行った。内容はアプリを用いて画面上に複数の図形を映し出すというもの。映像の中に異なる特性を持つ図形が出現した際、人間はどのくらいのスピードで反応できるのかを検証した。実験後、学生には毎回レポート提出が課せられている。内容の精度はもちろん、文章のフォーマットは守られているか、統計学的な

分析が適切にされているかなどが評価の対象になる。実験結果の分析方法やまとめ方、論文の書き方を実践的に学ぶことで、心理学研究に必要な基礎的なテクニックを身につけていく。これは3年次におけるプレ卒論や卒業制作のための効果的なトレーニングにもなっている。

「自分自身の心は自分が一番分かっているという思い込みがあるせいか、心理学研究には、簡単にできそうだという間違ったイメージがあります。物理的に存在しない心を客観的にとらえることは非常に難しく、実験や調査経験が少なく適切なデータは得られません。あなたの心はどうなっていますか？」と言葉で聞いても分からないことを、科学的な実験や調査から引き出していくのが醍醐味であり、難しくも面白いところ。学生にはそこに興味を持ってほしいと思っています」

ときめく「知」の交流

地域社会への知的貢献を行う拠点として、「新潟大学駅南キャンパスときめい」と設置されています。新潟駅直結のPLAKA1に位置する抜群の利便性のほか、約610m²(185坪)の広さに、大小の会議室、展示イベント等に使用できる多目的スペースを提供しています。それぞれの会議室には大型スクリーン、プロジェクター等のAV機器が用意され、講義のほか、講演会やセミナーにも最適です。どうぞお気軽にご利用下さい。

新潟大学基金

トピックス 〈公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会からの寄附金受贈式が行われました〉

2月3日(水)に本学において、公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会新潟県協会より「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」の支援を目的とした本学への寄附金受贈式が行われました。受贈式では、公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会新潟県協会会長 阿部祐太氏より「子どもたちやそのご家族のためにぜひ役立ててほしい。」との想いを込めて目録が贈呈されました。本学では、令和元年10月より募金活動を開始し、多くの皆様から温かいご支援を賜りまして、令和2年10月21日に建設資金の目標額1.8億円に達することができましたが、引き続きハウス運営のための募金を集めております。「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」は、令和4年10月に新潟大学の病院地区構内に開設予定となっております。



公益社団法人生命保険
ファイナンシャルアドバイザー協会
新潟県協会会長 阿部 祐太氏(右)

新潟大学サポーター倶楽部

【目的】 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

【寄附者名簿】 (R2.12~R3.2入金分)※(50音順 敬称略)

【新規】〈個人〉 匿名希望1名	株式会社小野組	株式会社熊谷	税理士法人近藤まこと事務所
〈団体〉 株式会社アルコン	CEC新潟情報サービス株式会社	株式会社巴山組	株式会社ナルサワコンサルタント
三和ポーリング株式会社	株式会社ピアールシー	松井建設株式会社北陸支店	水澤電機株式会社
日本シイエムケイ株式会社			
三星工業株式会社			
【更新】〈個人〉 匿名希望1名	株式会社エスエフシー新潟	クロスウィルメディカル株式会社	一般財団法人健康医学予防協会
〈団体〉 一正蒲鉾株式会社	小林事務機株式会社	株式会社高藤電設	株式会社ジオックス
株式会社興和	中越クリーンサービス株式会社	日本海エル・エヌ・ジー株式会社	株式会社パイオニア
第一生命保険株式会社新潟支社	藤田金属株式会社		
株式会社富士通新潟システムズ			

最新の会員名簿は、右記のURLからご覧いただけます。 <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

トピックス 〈株式会社ピアールシーへ感謝状贈呈式が行われました〉

3月4日(木)に本学学長室において、牛木辰男学長より株式会社ピアールシー伊藤誠代表取締役社長へ感謝状を贈呈させていただきました。これは、「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」運営の支援を目的として本学へご寄附を賜り、そのご厚意に対し、感謝の意を表するものです。また、株式会社ピアールシーからは、新潟大学サポーター倶楽部会員として本学へのご支援を賜っております。



株式会社ピアールシー
伊藤誠代表取締役社長(左)、
牛木辰男学長(右)

新潟大学古本募金

【目的】 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。

寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

【寄附者】 (R2.12~R3.2寄附入金分) 〈個人〉 19名 〈団体〉 11団体

遺贈によるご寄附

【遺贈とは】 遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々へ寄附することを遺贈といいます。この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、下記お問合せ先へお問い合わせください。

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** 【TEL】025-262-5651・6010・6356 【E-mail】kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
【HP】<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

一学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

【目的】 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。
令和2年度からは、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」の支援に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

【寄附者名簿】 (R2.12~R3.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉 坂垣 厚一	速藤 聡	岡村 光展	影山 慎二	黒田 喜久二	外山 久泰	西村 昌子	星 祥彦	松井 俊文
宮崎 聡	矢田 省吾	米岡 有一郎						匿名希望7名

新潟大学基金

【目的】 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

【寄附者名簿】 (R2.12~R3.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉 相川 ムツ子	青山 章二	浅妻 貴夫	浅野 義明	阿部 正昭	李 裕梨	飯塚 健一	飯原 笑子	池田 奈菜子
石栗 慎一	石田 武裕	坂垣 厚一	伊積 孝	伊藤 忠雄	伊藤 誠	伊藤 雅章	福田 信敬	猪俣 博
岩部 洋育	瓜林 正博	江口 真人	大石 通明	大浦 容子	大木 基史	大崎 武史	太田 まさよし	大友 真
大野 孝	大林 直人	小川 章子・小川 晶子	加藤 澄人	小川 晃市	奥田 誠	奥野 義隆	押井 博也	小野 秀平
影山 慎二	勝見 一生	勝井 丈美	加藤 澄人	加藤 政夫	金子 峰	金子 双男	亀山 雄樹	川上 温
河村 醇	川村 豊	神田 清栄	木村 建吉	久我 千代子	沓名 克尚	久保田 道雄	栗林 郁夫	栗林 重夫
栗山 弘	黒田 喜久二	小泉 吉衛	合田 正毅	古賀 彩	古賀 寛	後藤 厚	後藤 一敏	後藤 卓雄
胸形 康吉	齋藤 勝三	齋藤 利夫	齋藤 義之	寒河江 克彦	坂下 五雄	坂本 太毅	佐々木 重信	佐藤 栄子
佐藤 純一	佐藤 眞司	佐藤 英	佐藤 大介	佐藤 悠正	佐藤 正道	品田 宏夫	篠田 和男	島田 正寛
清水 絃光	霜島 康	城内 紗千子	菅原 禎	鈴木 輝雄	鈴木 昌史	仙石 正和	袖野 強	鷹西 輝
高野 康夫	高橋 誠仁	高橋 隆昌	高橋 照行	高橋 るみ子	瀧澤 孝	滝澤 哲也	田口 洋治	竹内 達也
田中 好一	田中 俊平	田中 隆	田中 利男	田中 昇	田辺 徹雄	田村 育子	田村 真知子	塚本 直子
常見 佳人	土井 信博	富樫 繁太郎	土肥 栄祐	富永 正文	外山 久泰	長澤 勝彦	中嶋 和之	中野 剛士
仲野 一二美	中村 玄樹	中山 英明	西山 五十志	新部 信昭	野口 武嗣	花田 晃治	濱田 英莉	濱田 一成
林 千衣子	原 宏	原田 健太郎	樋口 英樹	張替 徹	平野 隆久	福山 利範	保刈 玲子	星 豊一
星野 健介	星野 力	前田 博之	牧田 武紀	増田 豊	松岡 琢磨	丸山 武男	三浦 新市	三浦 隆義
峯岸 晴正	武藤 寛人	村上 肇	村松 良二	村山 信明	目崎 秀太	目良 恒	森 恭一	森田 重亮
森山 具文	矢田 省吾	山賀 晃	山岸 大輔	山口 昇	山口 礼子	山田 邦雄	山田 道和	大和 愛司
山本 明雄	山本 憲一	吉田 隆	米岡 有一郎	米川 宏一	若月 隆	渡邊 昇	渡部 博	渡辺 浩匡
渡邊 倫子								匿名希望123名

〈団体〉 株式会社宍成	鹿島建設株式会社	株式会社北村製作所	教職員共済生活協同組合大学事業所
国際ソロプチミスト新潟-西	公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会新潟県協会	株式会社新井製作所	全農物流株式会社
チャリティーコンサートはじめのいっぽ	新潟県小児科医会	株式会社新潟ケンペイ	株式会社ナカムラ
公益社団法人新潟県看護協会	新潟大学小児科親の会SMILE(すみれ)の会	新潟大学農学部生物化学研究室	新潟総合警備保障株式会社
新潟大学歯学総合病院小児科親の会	医療法人社団 三浦内科医院	ユニオンツール株式会社	株式会社ピアールシー
福田道路株式会社			株式会社ピアールシー
			菱機工業株式会社新潟支店
			匿名希望5団体

トピックス 〈ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた開設時期変更のご報告とお詫び〉

設置に向けた募金活動では、多大なるご支援を賜り誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。おかげ様で昨年10月に建設資金も目標額に達し、建設に向けて準備を進めているところですが、開設時期が当初の予定より半年ほど遅れ、令和4年10月となりましたのでご報告いたします。現在、良い建物(わが家のようにくつろげる第二の家)を建設するため、契約方法、建物の形状、工期及び工事車両通路の確保等を入念に検討しているところです。この度、隣接地の建物の取りこわしや、ハウスの機能の見直しの結果、のり面を含んだ設計変更の必要があり、半年遅れの開設とせざるを得なくなりました。ここに謹んでお詫び申し上げます。今後も、皆さまのご期待に応えられるハウスが建設されるよう努めてまいります。なお、今般の新型コロナウイルス感染症により、皆様も厳しい状況になっていることと思われませんが、今後はハウスの運営に係る費用のご支援を賜りたいと存じます。皆様のご寄附が、難病の子供たちとその家族の未来の支えとなります。引き続き温かいご支援を何とぞ、よろしく願いいたします。

ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた運営支援募金の詳細は、以下のURLまたはQRコード読み取りでご覧頂けます。
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/dmh-niigata/>



新潟大学 古本募金

読み終えた本が募金となって 学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください

お申込み

新潟大学古本募金

0120-29-7000

(受付) 9~18時
(運営) 曙野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

企画 新潟大学サポーター連携推進室
TEL. 025-262-5651, 6010

真の働きを学ぶ
新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

JICA東京センターと連携に係る覚書を締結しました

本学は、3月24日(水)に国際協力機構(JICA)東京センターと連携協力推進に係る覚書を締結しました。本学とJICAとは、医学や防災といった様々な分野で教員がJICAプロジェクトに専門家として参画したり、JICAが招へいする外国人研修員を本学へ受け入れるなど、様々な連携を長年継続してきました。特に2019年からは、JICAからの奨学金を受けて開発途上国からの留学生を受け入れる事業を開始しており、この制度により現在アフリカ諸国8か国から12名が本学の大学院自然科学研究科で学んでいます。同日オンラインで行われた調印式では、牛木学長から「特にSDGs推進の面で、先導的な役割を担うJICAから協力をいただきながら国際社会・地域社会の発展に貢献したい」、JICA東京センター田中泉所長からは「新潟・日本と母国との架け橋となる、開発途上国からの留学生の受け入れを更に拡大していきたい」と挨拶がありました。本学では、今回の覚書によって両者の連携を更に深化させ、国際社会・地域社会に貢献する人材の育成等を進めることとしています。



出雲崎町長から感謝状を贈呈されました



出雲崎町の交通死亡事故ゼロ4,000日達成への多大なる貢献が認められ、3月22日(月)、出雲崎町の小林則幸町長から本学へ感謝状が贈呈されました。この取組の中心的な役割を担っている教育学部の村山准教授は、長年の地域活動により培った地域住民との関係を基盤に、出雲崎町をフィールドに日産自動車との共同研究によるトリトン・セーフティ・イニシアティブ(従来の交通安全啓発の枠組みにとどまらない「まち・生活・交通」を結ぶ提案を目指していくというプロジェクト)を実施しています。この活動では、誰一人取り残さない安心安全なまちづくりを目指し、①安全なまちづくりのための基礎データを収集する「地域住民の運動機能調査」、②地域全体を巻き込んで交通安全に対する意識を高めることを目指す「おもいやりライトアクション」、③交通安全をキーワード

に地域と大学生との交流機会をつくり子どもの交通被害ゼロを目指す「オンラインランチキャンパス」をはじめ様々な取組を展開しています。贈呈式にて、小林町長は「出雲崎町が目指す安心・安全なまちづくりに大きく貢献された。これまでのご尽力に心から感謝申し上げます。」と述べ、牛木学長から「出雲崎町の皆さんが新潟大学を受け入れてくださり、こうした活動を展開できることに感謝している。」と謝辞がありました。

「5G時代の新たな産業創出に向けた産学官の取組み」に関する連携協定を締結しました

新潟大学、新潟市、株式会社 NTTドコモ(以下、ドコモ)、学校法人国際総合学園新潟コンピュータ専門学校(以下、NCC)は、第5世代移动通信システム(以下、5G)等先進技術の分野において、産学官が相互に協力する体制を作ることで、新たな地場産業創出に繋がる取組を促進するため、4月9日(金)に連携協定を締結しました。新潟市においては、「若年層を中心とした都心部への人口流出」、「地域経済の発展」が課題となっています。それを解決するために、本協定を通じて、5Gを活用した新たな産業創出を推進していきます。具体的には、新潟市の産業振興センター内に開設予定の「5Gビジネスラボ」を拠点に、新潟市の運営のもと市内外の企業が参加する「DXプラットフォーム」を立ち上げ、ドコモ、新潟大学及びNCCが「DXプラットフォーム」と連携することで5Gビジネスの活性化を図ります。そして、次世代産業の担い手を育成するために、ドコモが学生向け5G講演会や5Gを体験できるイベントを本学やNCCと協力して開催し、5Gを用いた新サービスのアイデア創出を促進します。また、継続的な発展をめざして、ドコモは本学とともにBeyond5Gの共同研究を進めてまいります。これらの取組により、新たな地場産業を創出し、新潟市の魅力向上をめざします。本学では、本協定のもと、新潟市、ドコモ、NCCと連携し、新潟市の経済発展とさらなる地域活性化を目指した取組を推進していきます。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2021.SPRING No. 36

発行/令和3年4月
編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話/025-262-7000
FAX/025-262-6539

Home Page <https://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学 Facebook
<https://www.facebook.com/niigata.univ>

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。